１９９５年　８月１０日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
２０１２年　２月２４日発行ＳＳＫＳ増刊通巻第５４４４号　風の子便り

ＳＳＫＳ 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう

2012年
3月号

目　次

☆虫めがね１　・・・・・・・・・・・・２
☆虫めがね２　・・・・・・・・・・・・３
☆東都生協交流会報告・・・・・・４
☆活動報告・お詫びと訂正　・・５
☆外に出よう・・・・・・・・・・・・６
☆賛助会のお願い・
　スケジュール　・・・７
☆学習会・寄付のお礼・・・・・・８
☆岡本連載　・・・・・・・・・・・・９
☆小野塚連載　・・・・・・・・・・１０
☆和栗連載・夕会便り　・・・１１
☆編集後記・・・・・・・・・・・・・１２

１９９５年８月１０日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
２０１２年２月２４日発行ＳＳＫＳ増刊通巻第５４４４号　風の子便り

巻頭文

ここ数年と比べると、今冬は寒さが体に響くように感じます。風邪やインフルエンザなどにかからないよう、みなさんご自愛下さい。

小野塚　航

虫めがね

～なりたい職業～

私の場合、もう５２歳になりますので、いまさら何かになりたくてもなれるものでもないです。それで主に、今まで生きてきてなりたいと思っていた職業のことを中心に、話をまとめてみようと思います。

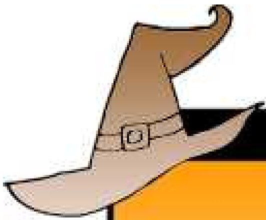
小学生の頃は野球が好きでしたので、野球選手になりたいと思っていました。誰でも夢見る妄想です。かといって、野球がそれほどうまかったわけではないので、その夢は問題外です。中学、高校のころは、理科系の勉強が割と得意でしたので、数学者か物理学者になりたいと思って勉強をしていました。高校の頃、将棋も好きでしたので、プロ棋士になれるものならなろうかと思ったこともありましたが、年齢的に無理でしたので、すぐ諦めました。ところが、大学に入ってから様相が一変してしまいました。一応理系の学部に入学しましたが、第一志望の大学ではなく、学部学科も希望通りでなかったので、熱心に勉強することを放棄しかけていました。そしてそのころちょうど、ディスコ・ソウルブームで、学生はみんなバンドを組んだりして音楽志向が強く、僕も、音楽関係で身を立てることができたらいいな、とか考えるようになりました。もっともその頃の僕の音楽歴は、子供の頃、ピアノ、バイエルを中途でやめただけでしたので、誇大妄想もいいとこですが、誰に習うわけでもなく、毎日キーボードを叩いていました。大学再受験、留年なども経験して人より非常に長い学生生活だったのですが、そのうち事故で体を悪くしてしまいまい、その時、自分にできることは数学、物理学の勉強しかないと思い込み、また学究生活を再開しました。大学を離れてからは、どこにも籍を置かず、ほとんど独学で勉強していたのですが、いかんせん、やるべき時にやらなかった悲しさ、全然成果はあがりませんでした。そのような生活を細々と続けて今日を迎えました。いまさら物理、数学など勉強して何にもならないことは十分承知なわけですが、それをやめたら夢がしぼんでしまい、生き甲斐をなくしてしまいます。まだ再起の可能性が千に一つ、万に一つでも残っているかぎり、その見果てぬ夢を追い求め、漠然とした希望を捨てないでいることも一つの生き方だと自分なりに解釈しています。

ストーン・ゴッド

１９９５年８月１０日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
２０１２年２月２４日発行ＳＳＫＳ増刊通巻第５４４４号　風の子便り

虫眼鏡

なりたい職業

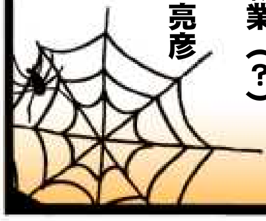


現実的な物（現実世界且つ、なれる可能性がある物）を挙げると、『コンピュータグラフィッカー』や『コンピューターゲームに携わる職業』に就いてみたかったです。

　現実世界だけどなれる可能性が無い物で挙げると、『何でも屋』になってみたいです。

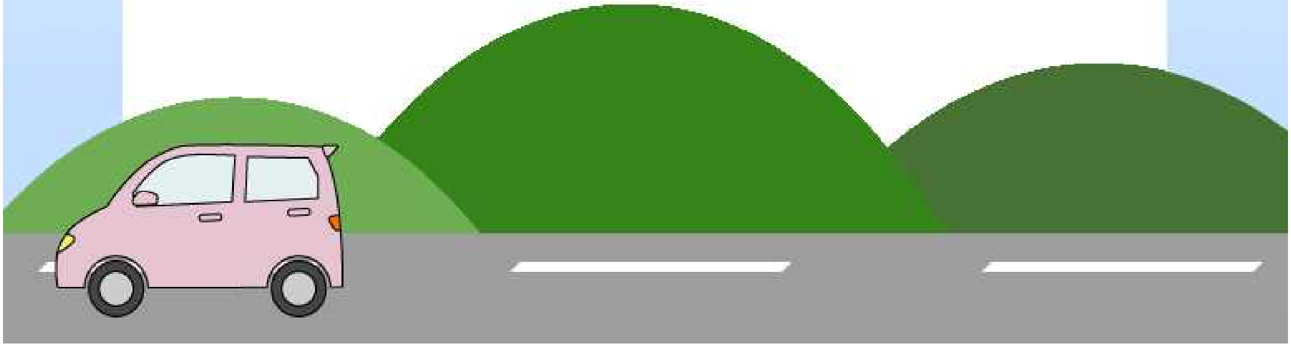
　非現実的な物では、アニメ世界である様な『魔法等有り得ない物を扱える人』という職業（？）に憧れます。

田村　亮彦



私のなりたい職業は長距離トラックの運転手です。日本中をくまなく走り回り、その土地の名物料理を食べながら土地の人たちの話を、黙って聞いていたいのです。　今でもその気持ちに変わりはないのですが、私は制服を着ている人達が大好きで医師なら内科医になりたいと思っています。

太田圭子



　1月22日日曜日、高浜荘で餅つき大会が行われました。僕は岡本明さんと一緒に餅をつきました。うまく行きました。部屋に戻ってみんなでお餅を食べました。
　メニューは雑煮、のり、あんこ、きなこ、大根おろしです。参加メンバーは太田さん、小野田さん、松本親子、北原さん、三木さん、青木さんです。 みんなが幸せな顔をしてました。食後にトランプをやりました。勝ったのは平沼さん姉妹でした。
　ことしもたのしかったです。去年から参加してます。僕が餅をつくのは2回目です。
とっても美味しいかったです。

柳川　敬事

きなこ餅、あんこ餅などおいしかった！
また参加をしたいです。
お餅を食べたあと、トランプしました。
みかちょんを岡本さんがいじめてました。
みかちょんの姉妹来てくれました。また来て欲しいです。

松本　恵司

　一月二十八日（土）午後三時～五時まで、クラブ活動を行いました。習字クラブや、お仕事クラブなどの各クラブで二回目の活動をしました。私たち運動クラブは、リハビリやストレッチなどについて、個別に調べたことを発表をしたり、井出さんが自宅から金魚運動をする機械を持ってきてくれて、皆で順番に使って体験をしました。僕は初めて利用してみて、体の揺すぶられに最初は、緊張をしてしまい動きずらかったですが、その後リラックスをして体がスムーズに動き出しました。次回は、ジョーバにチャレンジをすることになりました。その後皆で反省会を行い、次回、二月二十五日（土）に行われることになりました。

田中　聡

１９９５年８月１０日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
２０１２年２月２４日発行ＳＳＫＳ増刊通巻第５４４４号　風の子便り

学習会報告

二〇一二年、最初の学習会（一月十一日）は、初詣ということで愛宕神社にボランティア三名＋メンバー十三名＋職員七名の計二十三名で参拝して、当日は（気温八℃）寒かったので隣接してある放送センターにて見学をして十五時半には送迎体制に入りました。放送センター内には、現在放送されている大河ドラマ「平清盛」等が展示されていました。

一月一八日は、新春ゲームという事で「福笑い」・「いろはカルタ」・「駒廻し」等を賑やかにやりました。

一月二五日、港区立障害福祉センターの５階体育室をお借りしてサッカーとボッチャを楽しみました。サッカーはみなテンションが高く結構な運動量なようでした。一方のボッチャは静かにプレーしていました。

担当・三木

１９９５年８月１０日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
２０１２年２月２４日発行ＳＳＫＳ増刊通巻第５４４４号　風の子便り

退職職員挨拶

風の子会に入ってあっという間に九年近くが経ちました。

私が入った時は、芝実習所と高浜実習所の二作業所で、芝作業所に居ました。そこは商店街にも近く一階で、片側の壁面がガラス張りだったので明るく往来の人の姿も良くみえました。それから数年して今の高浜作業所に一緒になり現在に至っています。

始めの頃は利用者さんの言葉が上手く理解出来なかったり、勝手が良く解らなかったりして、もどかしい想いをさせてしまう事も多々有りました。

みんなで参加した一泊旅行や区民まつりのカレンダー販売も楽しい思い出です。

今から考えてみると、あっという間の出来事の様な感じです。まだ日にちが有りますが、今まで有り難うございました。これからの会の発展を遠くから応援しています。

河原　雅子

暦の上ではもう春ですが、まだまだ寒い日が続いております。

さて、この度私は３月をもちまして、風の子会を退職することになりました。

長い間の出来事が、昨日の事のように浮かんできます。どれも皆楽しい思い出です。

新任当時は、東京タワー近くの民家の小さな部屋で、パソコン、手すきハガキ、はしの袋入れ等、今の風の子の主な仕事として行われている作業をしていました。水曜日と土曜日は、田町の障館で、ボランティアの方々と一緒に活動をしていました。その約半年後、高浜に移り現在に至っています。

その間、実に多くの方々に支えられて、風の子会は大きくなりました。同じ様に、この私も通所会員の方々はもちろんその御家族、ボランティアの方々、職員の方々の御厚情、御支援のお陰で今日を迎える事が出来ました。ここに退職の日を迎えるにあたり、心よりお礼を申し上げますと共に、風の子会の御発展とご活躍をお祈り致します。

岡　佳代子

１９９５年８月１０日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
２０１２年２月２４日発行ＳＳＫＳ増刊通巻第５４４４号　風の子便り

新メンバー自己紹介

石神一郎といいます。昭和３４年、11月16日生まれ、５２歳です。以前、２０００年頃、風の子さんにお世話になりました。週に一日だけ通って、主に手作業をやっていました。また皆様と一緒に作業、お話がしたくなり、再入会を希望しています。

右手指が全然動かず、右足は義足使用、一種２級の身体障害者です。港区高輪の都営住宅に母と二人で住んでいます。

趣味は、数学、物理学の勉強、パソコン、将棋です。誤解しないでほしいのは、数学、物理学が好きだというと頭がいい人間だと思われるかもしれませんが、決してそんなことはなく、むしろ客観的にいって、自分は頭の悪い部類の人間だと思っています。ただ、若い頃からほとんどそれしかやってこなかったので、今でも細々と継続しているだけです。将棋は、体を悪くしてから少し熱中しました。パソコンは13年間やっていますが、系統的に教わったことがあまりなく、大した腕前ではありません。自宅では主にインターネットをやっています。

自宅から歩いて通えることも、入会志願理由の一つです。改めて風の子さんの門をたたいてみて気がついたのは、メンバーの皆様の記憶力が大変いいことで、12年ほど前に通っていた僕の名前まで皆が覚えてくれたことには驚きました。体の障害があると他の部分でカバーしなければならない、そのために記憶力、思考力が良くなっていくのでしょうか。

母はよく外出して家にいないことが割と多いですから、家に一人でいると精神衛生上非常に良くないので、また皆様と一緒に活動できることになれば、大変好ましい、楽しいことだと思います。

よろしくお願いいたします。

１９９５年８月１０日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
２０１２年２月２４日発行ＳＳＫＳ増刊通巻第５４４４号　風の子便り

バリアフリーよもやま話　　第７回　「ちょっと珍しい車いす三つ」

今回は最近開発された、ちょっと変わった車いすを三つご紹介します。

［竹製車いす］

竹は私たちに実に多くのものを与えてくれます。ちょっと考えただけでも、ざる、塀、いす、花弁、笛、彫刻などなど・・・数え切れないほどの用途があります。そして車いすも作られています。すべて熟練した竹職人による手作りで、そのやさしさ、温かさは乗る人の心にやすらぎを与えてくれます。値段はかなり高いものですが、愛用している人は多いそうです。

しかしこれまでの竹製車いすは主として室内用で、また 100%竹製ではありませんでした。ブレーキ、車輪は金属やゴムです。ところが昨年、金属を一切使わない竹製の車いすが開発されたのです。座面、背もたれの布、タイヤのゴム、車輪のカーボン以外はほとんど竹を使用し、金属は使っていません。

何のためでしょうか。実はこれは日本航空が産業技術総合研究所と大分の家具工房のサン創 ing 社に依頼して開発したものです。そう、飛行機に乗る車椅子の客のためなのです。日本航空を利用する車いすの人は年間に約 85、000 人だそうですが、ゲートを通るときに、持ち物には金属などは一切なくても車いすの金属が検査機に反応してしまうのです。そのためいつも改めて検査を受けなければなりませんでした。これを何とかしよう、と考えられたのが総竹製の車いすです。心遣いがうれしいですね。大分の特産である孟宗竹で作られています。これまで金属が使われていた部分を竹で作るのに一番苦労したのは、車輪を手で回すためのハンドリムで、竹を暖めて丸くするタイミングがとても難しいそうです。すべて手作りのため、制作可能な台数は1か月に1台、価格も60万円しますが、日本航空では2011年1月大分空港で貸し出しを始め、当面は全国で10台を予定しているということです。

［足こぎ車いす］

車いすは足が不自由な人が乗るもの、だから足の代わりに手や電動モーターを使って動かす、というのが常識です。ところがなんと足でこぐ車いすがあるのです。東北大学の医学部の先生と仙台の企業の株式会社TESSが開発した「プロファンド」という名のこの車いすは、自転車のペダルと同じようなものがついていて、ごく軽い力で、片足でもこぐことができます。足が不自由といっても少しは動かせる人なら、手が使えなくても短い距離なら自分で移動ができます。

逆転の発想ですね。家の中などでちょっとした移動を自分だけでできるようにする、というのはとても大切なことです。

この車いすは単に移動のためだけでなく、軽い力でこぐことで、リハビリテーションの役にも立ちます。また、片足が動かない人も、硬縮していなければ、その足をペダルに乗せることによって屈伸させることができ、これも有効なリハビリテーションになります。価格は30万円強です。

次ページにつづく→→→

［車いすバイク］（車いすそのものではないのですが）

車いすのまま乗り込めばそのままバイクに早変わり！　こんな，スポーツ感覚の新しい乗り物をWCV(ホイール・チェア・ビークル)といいます．自動車デザインなどを手がけている株式会社ワイディーエスという会社が開発しました．

車いすから降りて自動車に積み込んで，運転席に移って運転するのとは違い，これは三輪車の中にスロープを使って車いすごと自力で乗り込みます．乗ったらバーを降ろして固定するだけで運転できます．もちろん手が使えることが条件になりますが．

曲がるときは2輪車のように車体を傾けるのではなく，ハンドルで曲がるのでヘルメットは不要ですが，頭も身体もむき出しなので被った方が安全だと思います．

バッテリーを2個積んで50km走れるそうですので，ちょっとしたドライブが楽しめますね．ただ，これは基本的には自動車なので普通免許が必要です．最近は手だけで運転する車でも免許が取れますから，今後WCVを楽しむ人が増えるかもしれません．普及したらレースも開かれるかもしれません．

岡本　明

僕の生い立ち
～第十一話～

いつも伯父が散歩に連れて行ってくれる場所は渋谷の代官山。当時はこれが渋谷区かと思われるほどの静けさ。（今でもここの一角は昔とほぼ変わっていない。）伯父はよく僕に言ったものである。「稔が大人になったら喫茶店に連れて行ってやりたい。」余談ではあるが、今の男のヘルパーさんが大のコーヒー好き、三時頃になると車いすを持ってきてくれる。そして黙って車いすに乗せてくれ黙って町の中へ。向かう先は勿論町の喫茶店。勿論飲むのは、コーヒーだが初めのうちはコーヒーの味が分からず、ミルクや砂糖を入れていたがようやくこのごろコーヒーの味が分かるようになり、ブラックコーヒーが飲めるようになってきた。それから僕はこのごろコーヒーが癖になったらしい。

１９９５年　８月１０日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
２０１２年　２月２４日発行ＳＳＫＳ増刊通巻第５４４４号　風の子便り

わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第４２話　運営委員会に入る

「ヅカシ、運営委員会に入らない？」５年目の春の終わり頃、同室のヒロセが突然そう言った。「は？　何で俺なんだよ？」突然の切り出しに、そう答えるしかなかった。「候補者がなかなか集まらなくてさ」困り顔のヒロセを見ながら「そっか、そういやヒロセは選管だったな」と思い出した。新歓時期を過ぎて寮生が一通り落ち着き始めた頃、寮で選挙が行われる。半年の任期を終えた運営委員と食堂委員と文化局、それらの新しい委員を選出するのだ（寮の自治については第４話参照)。その選挙を執り行うための選挙管理委員をヒロセが担っているという訳だ。「だからさ、助けると思って、やってみてよ」「ってもなあ、俺５年だぞ。留年生が運営委員なんて聞いたことないぞ」それに、今年こそは卒業しなければならない。

「頼むよぉ・・・」そう言うヒロセを見ながら、寮の人間関係が変わりつつあることを改めて思い知らされたような思いに捉われた。僕が入った頃の寮は、体育会系気質というか歳の上下関係を重んじる空気がまだ残っていた。先輩は後輩を指導しながら支え、後輩は先輩の指示に従いながら成長する。そんな古き良き時代の伝統のようなものが、ここには確かにあった。だから寮の自治もしっかり機能していたし、選挙もシステマティックで形骸化したものとしての選挙ではなく、選挙としてちゃんと行われていた。それが今こうしてみてみると、先輩も後輩もなく誰もが友達感覚で付き合っていて、上下関係が形成される場としての寮ではなくなってきているし、それ故か選挙で候補者が揃わないという状況にさえ陥っている。どちらがよいのかなんて誰にもわからないし、それが時の流れなのかもしれない。あるいは、僕らの年代が、先輩としての役割を果たせなかった故なのだろうか・・・

「ていうかさ、俺なんかが入って、何か役に立つのかよ？」運営委員など、自分とはまるで別世界のことだと思っていた僕は、腕組みしながらそう問いかける。「そのへんは大丈夫だよ。委員経験者が何人か続投してくれるようだし、その中にはトモやマキみたいな顔見知りも多い訳でさ、５年生だとか、新入りだとかっていう気遣いはあまりしなくていいよ」なんとしても選挙を滞りなく行いたいヒロセの必死さが伝わってくる。「トモとマキ、ねえ・・・」マルボロを咥えながら呟く。確かに彼女たちとは付き合いが長いし、そういう仲間がいてくれれば気負わずに済む。けれども卒業を真剣に考えなければならないこの時期に、寮の根幹たる自治に加わるべきなのだろうか「うーむ・・・」

「そんなに考えることないんじゃない？　今の運営委員会や自治について、ヅカシがどう思っているか、そこを軸に考えれば、答えは自然に出てくるよ」。確かにここ１、２年、自治が形骸化したために機能不全となっている場面もいくつか目についてきているし、そのせいで生じるトラブルもいくつか起きた。これからの自治に一抹の不安を感じていたし、先輩として何かしたいという考えもなくはない。「ヒロセも困っているようだしな・・・やってみるか」言いながら、隣りにトモがいることにふと気づく。「どわ！？・・・ってオマエ、いつからいた？」マルボロを落としかけながら言う。「さっきからずっと。ヅカシ、一緒に運営委員会、盛り上げてこうね！」いつも通りの屈託ないトモの笑顔の前に、ただ頷くしかなかった。

～　第４３話へつづく　～

１９９５年８月１０日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
２０１２年２月２４日発行ＳＳＫＳ増刊通巻第５４４４号　風の子便り

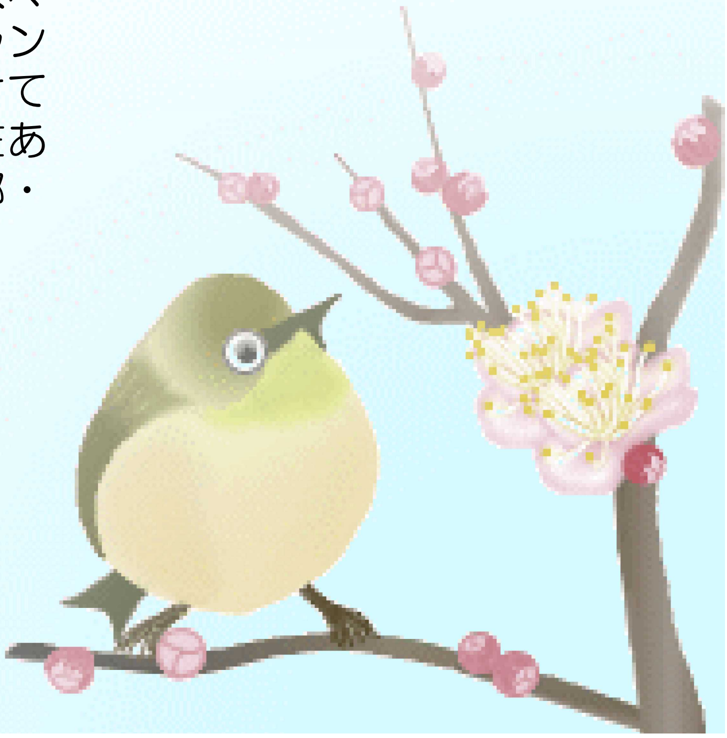
夕会便り

一月七・十四日は、近々予定している料理教室の内容について話し合われました。大多数の意見を占めたのが「鉄板でできる料理がいいのでは・・・」という意見でした。で、挙げられったのが焼きそばやオムレツ・お好み焼き・炒飯等でした。

一月二十一日は先週に続き、料理教室で何を作るかを具体的に話し合い、挙げられたのが、お好み焼き・ちらし寿司等でした。

一月二十八日は、ボランティアさんに協力頂いてのクラブ活動（十五時～十六時）があったため夕会はありませんでした。

※クラブ活動とは、個人々々がやりたい活動をボランティアのサポートを受けてやる活動のことで、現在あるクラブは、囲碁将棋部・出版部・運動部等



１９９５年８月１０日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
２０１２年２月２４日発行ＳＳＫＳ増刊通巻第５４４４号　風の子便り

編集後記

僕の祖母は、甘いものが異常だと言われるほど好き、それに負けず劣らずなのが祖父、そして二人が始めた商売は、高級和菓子の店「武蔵野」明治の末から、僕の生まれる昭和十七年頃まで、東京赤坂一ツ木通りに祖父と祖母で経営していました。なかなか商売も流行ったそうです。何しろ昭和天皇の侍従が買いに来るくらいですから。　　　　太田　稔

春の訪れを感じる今日この頃ですが、二月・三月というと学生の皆さんは、進路について頭を悩ます方もおられることでしょう。僕も高校時代に、進路について悩んだことも思い出します。それまでは、特別支援学校に通っていたため、健常児の学生と交流を取りたかったので、夜間高校へ進学を考えました。何ヶ所か学校見学に行ったり、受験勉強を行い準備万端でしたが、その当時、僕が通っていた学校長が反対をしたため、敢え無く断念しました。卒業間近だった僕は、放送大学へ入り障害者福祉を専攻しました。その放送大学を卒業すれば、国立大学と値するぐらいの大学だそうです。それだけ、レベルの高い大学だったのですね。因みに現在は、僕の母の従兄弟が放送大学の教授をしています。あぁ！学生時代が懐かしいなぁ！

タナッキー（田中）

障害者スポーツ大会の練習や筋トレをまた頑張っているところです。年齢的にもう都記録更新は難しいかもしれませんが、平均記録は上回れるようになりたいです。

田村　亮彦

ひとりぼっちの障害者をなくそう
特定非営利活動法人・風の子会
～定価４０円～

編集者
太田圭子
小野塚航
田中聡
松本恵司
右田麿子
吉田久代
柳川敬事

太田稔
佐久間庸
田村亮彦
三木直人
幸高史
和栗顕太郎
石神一郎

編集人：【高浜生活実習所】
生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
東京都港区港南１－１－２７ カナルサイド高浜３階
TEL　03(3474)9674　　FAX　03(3474)9213

ブログ：**http://kazenokokai.blogspot.com**

発行人：障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧６－２６－２１